

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ 研究に対するご協力のお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんの放射線治療計画を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、放射線治療計画を利用してほしくない方は、以下の問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	強度変調回転放射線治療 VMAT におけるマルチリーフコリメータのモデリングが治療計画装置上の線量分布と放射線治療装置が提供する線量分布に及ぼす影響
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の 提供を行う 研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) 診療支援部放射線部門 (職名) 診療放射線技師 (氏名) 宇高 昌弘
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 2030 年 3 月 31 日
対象となる方	2018 年 4 月から 2029 年 3 月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち VMAT 放射線治療を行った患者
利用する試料・ 情報等	放射線治療計画
研究の概要 (目的・方法)	強度変調回転照射法 VMAT(Volumetric Modulated Arc Therapy)は照射技術や線量分布の性質上、治療開始前に患者・治療計画ごとに線量精度を確認・検証することが一般的である。現在当院でも Film 解析・ポイント線量実測・3D 検出器測定の 3 つの方法で治療計画装置上の線量分布と放射線治療装置が提供する線量分布との比較を治療開始前に実施している。近年の放射線治療の高精度化に伴い、患者個別 Quality Assurance に関しても検討項目が増加傾向にある。また、当院では 2025 年 1 月末より放射線治療計画装置 Eclipse のバージョンアップが予定されており、バージョンアップによってマルチリーフコリメータのモデリングが大きく変更されている。本研究は放射線治療計画装置 Eclipse のバージョンアップによって生じるマルチリーフコリメータのモデリングの変更が強度変調

	回転放射線治療 VMAT の線量分布の比較に及ぼす影響を比較検討することを目的とする。
個人情報の保護について	<p>この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。</p> <p>また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p>
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院診療支援部放射線部門科 宇高 昌弘 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-965-5660